

答辞

柔らかな日差しがそそぎ、春の賑わいが広がり始めた今日、私たちは卒業の日を迎えました。本日は多くの皆様にご臨席賜りましたこと、卒業生一同心より御礼申し上げます。

思い起こせば4年前、期待と不安を胸に…と言いたいところですが、私は3年次に編入をしてきたことから山梨大学で過ごした時間は2年間であり、卒業生の中でも少し短い大学生活でした。しかし、ここで巡り合えた、たくさんの素敵な方々のおかげで、2年間分を補えるほどの濃い毎日を送ることができました。

特に、研究室や部活動で過ごした日々は、私の中でかけがえのない思い出となりました。研究室の仲間とは楽しいことも苦しいことも共有し、気持ちが上がらない日でも研究室に入り仲間の顔を見ると心が軽くなりました。研究テーマはそれぞれでも、全員で協力し合い困難を乗り越えてきた私たちの繋がりはどこにも負けないと自負しております。また、私の所属していたダンス部の仲間は、人生に彩りを与えてくれました。ダンスの経験がなく、さらに途中から入部した私をまるで最初からいたかのように温かく受け入れてくれたことは、なによりも忘れ難い幸せな思い出となりました。山梨大学で出逢えた最高の仲間たちは、私にとって生涯の財産となると強く思います。

私には、土木のエンジニアとして活躍したいという夢があります。震災を経験し、幼い頃から漠然と人々を守る仕事に就きたいという思いを抱いていました。そして、中学生の頃には、インフラに関わる仕事であれば直接的に人やまちを守れるという確信に変わりました。大学で構造物や基盤、周囲の環境など、複数の方向から学びを深める中で、土木と誠心誠意向き合う山梨大学の先生方に出会い、感銘を受けました。私は、人を選ばず、利用する全ての人を守ることに尽力できる土木分野が大好きであり、私もその一員として活躍できるよう精進して参ります。

4月からはそれぞれの夢に向かい歩いていく私たちですが、この山梨大学で得られた全ての経験を自分の人生にとどまらず社会へ還元するべく、責任と自覚を持ち奮励努力することをここに誓います。

最後になりますが、未熟な私たちにご指導、ご支援くださった諸先生方、関係者の皆様に改めて御礼申し上げるとともに、どんな時も最大の味方として支えてくれた家族に心より感謝いたします。山梨大学の更なるご発展と大学関係者の皆様のご健勝・ご活躍をお祈りいたしまして、答辞とさせていただきます。

令和6年3月22日
山梨大学 卒業生代表
工学部 土木環境工学科
矢永 彩乃